

『教育復興』一九五〇年六月（東京書籍）

## 社会学習の視覚化

矢口 新

学習の視覚化ということは、現在の教育の課題となっている。それは経験化ということの一面と考えてよい。経験カリキュラムなどということがいわれているが、これは学習の地盤を経験におくということであろう。学習の地盤を経験におくことは、単に方法として経験をさせるといっただけの意味でない。すなわち知識を与え、観念として記憶させるために、経験を通しての方がより効果的だから、そのために経験させるのだという考え方ではないであろう。経験をさせることの意義はそういう点からも考えられる。ただ知識としてことばだけで教えるより、見せたり、やらせたりする方がより印象的で記憶に残るといっただけのことである。しかし現在主張されているような、経験学習は、そういういわば知識教育の一つの方法としての経験を主張するのでなく、より根本的な要請を含んでいるのである。それは経験学習の意義を、人間の実践的性格の形成という点から考えようとしているのである。そして学習の視覚化ということも、そういう点から主張されているのである。そこにこれまでの直観教育などと異った意味の見せる教育を主張する根拠があると考えなければならぬ。

新しい教育人間像を特色づける性格として、実践的人間とか、行動的人間とかいうことが言われている。実践というのはただ単に体を働

かすということでない。盲目的に、理性のない行動をすることを言うのではない。それは内に理性を含んで、現実を一步一步改造しようとする行動のことをいうのである。これは言いかえれば建設的な実践、あるいは人間生活の発展のための実践を問題にしているのである。そういう実践をなし得る人間を現在の社会が要求していることは、なんぴとも是認していることである。このような実践的人間は、ただ習慣にしたがった行動をし、考えることのない行動をする人間ではあり得ない。反対に、高い知性をもってしかも積極的、自主的に活動する人間である。

およそ人間の具体的な活動は、現実の環境との関係から生まれてくるのであるが、それがより高い状態を目ざした、現実の建設を目ざした実践であるためには、自分のおかれた現実を十分に見きわめ、これを批判し、複雑なものを整理して、そこから行動の目標を立て、そうして実際に活動するということなくてはならない。現実を見ないでただ観念的に考えたのでは、現実に行動することはできない。また逆に現実にとらわれて行き当たりばつたりの行動をしておれば、そこに成り立つ行動はただ無理想な建設とはおよそかけはなれたものである。実践的人間とは、あくまで現実をみて現実の中で理念を考え、自分の行動を理想実現の行動として創造できる人間のことであろう。

このような人間は単に知識を与えることだけでは育成されないであろう。ここに経験学習という事が主張される。根拠があるすなわち知識がただ知識として与えられただけでは、一つの固定した観念が与えられることになり、観念のわくの中でしか現実をみることができな

いことになるのである。これは無限に発展する現実の真の姿を見失わせるものである。といってこれまでの形の知識教育の中に経験をさせるといっただけをつけて加えてそれでよいかというと、それでもまだ真に

現実をみることでできる人間はできないであろう。

もし知識を与えるために経験をさせるといふことであるならば、それは現実を一定の観念のわくにあてはめてみせていることであって、真に現実そのものをみるという能力を与えることにはならない。たとえば酸素と水素を化合して水となるという知識を与えるために、実験をやってみせる。あるいは実験させるといふことであるならば、それは現実を一定の固定した観念として与えるということである。現実が本来そういうものとして固定しているべきものでない。そういう観念が厳として動かすべからざるものとして与えられるということは真に現実に生活する人間を育てるゆえんでない。それは本質的に現実に対する一つの解釈としてあるものであって、よりすぐれた考え方が発見されるかもわからないのである。だから知識を与えるために経験をさせるといふことは考え方として逆なのである。

われわれは経験だけでは、人間を育成することはできないことを知って、知識教育を成立させて来たのであるが、その知識教育も経験から遊離してはただ固定観念を植えつけないことになり、新しい世界を発見する人間をつくりだすことができないことを自覚した。実践的な人間の育成ということが新しく叫ばれているのはこの点をさしているのである。

そこで経験学習ということがいわれるのであるが、それは経験を土台として、現実の生活において実際に経験することについて、それを知性を働かして判断し、その現実の中で建設的な実践をしつづけていくことによって、実践的性格を形成しようとするのである。それは知識をもつけれども、しかも知識にとらわれないで、新しい現実を開拓する知識を生みだす人間を育てようとするのである。それは言いかえれば、現実をただ受けとる人間をつくらうとするのではなく、現実を自

らの目でみて、自らの力で開拓する人間をつくらうとするのである。経験学習の本来の意義はこういう所にあるといえよう。

経験学習をこのような考え方でみるとすれば、それは、一面には子供をして、現実を自分の目で見させることであり、他面には現実に対して働かせることである。ここに現実を見るということが、重要な学習となるのである。それはただみるためではなく、建設するために見るのであり、しかもただ観念や知識のわくの中でみるのではなく、現実そのものにぶつかって、これを自分の目でみる、見ながら考えるということが大切になる。その際にできるだけ高い知識が使われるということになる。

このように学習とは現実を見ることを土台として、そこに展開されるものと考えられるから、それは従来の学習とは根本的に異つたものとなるであろう。これを学習の視覚化ということばで呼んでいるのである。経験学習がただ知識学習の中に経験をおりこむということでないのと同様に、学習の視覚化ということも単に見せて覚えさせ、印象を強くして知識を確実にするというのではない。そういう考え方はちょうど逆に、見ることによって考え、見ながら考えることにおいて、その中から現実に関する知識も自ら獲得させるようにするのであり、さらに現実をいつも自らの目で見ようとする自立的な目をもった人間をつくらうとしているのである。

## 二

一般的な学習の視覚化を考えてみたのであるが、この原則は社会学習においてもなんら異なる所はない。むしろ社会学習こそ最も学習を視覚化すべき学習領域であるといえよう。それは社会学習が社会の現実を土台として、そこから社会生活の処理に関する能力を育成しよう

とするからである。

次に社会学習について、具体的な実例をあげて、その現実化の問題を考えてみよう。社会科の学習指導要領の補説をみると基底単元の実例として「新聞とラジオ」という主題がかかっている。今この中の新聞学習を例にとって、その視覚化の問題を考察してみることにする。

一体新聞の学習をさせるのは何のためかという点、いうまでもなく新聞記者をつくるためではあるまい。われわれの生活に使われているものの中で、新聞はきわめて重要な働きをもっているから、これについて一通りの理解をもたせることが必要とされるのである。しかしそれはただ現在ある新聞について知っているとすることが大切なのではない。たとえば、現在日本に新聞社がいくつあるかというようなことをただ知っている必要があるであろうか。新聞の仕事をする者は別として一般人のわれわれはそのようなことをただ知っている必要はない。

しかし現在日本にこれだけの新聞社があるということは、ただ数があるというだけでなく、実は社会的な意味をもっている。すなわち一つか二つしか新聞がないということと数多くの新聞が発行されていることの社会的意義は非常に異なる。社会に新聞が少ないということはその社会の支配者が新聞を統制しているという場合もあるかも知れない。あるいは社会に新聞を読む人が少ないということの結果かも知れない。反対に数多くの新聞がでていうことは、新聞を読む人が多く、自由な意見の発表が許されていることを地盤としているということがあるかも知れない。またその他にさまざまな事情があるろう。新聞の数の多いことは社会の思想的混乱を意味する場合もあるかも知れず、経済的不安定の表現かもしれない。

新聞社の数をわれわれが問題にするのはこのような社会的表現と

しての数字を問題にする場合である。そしてなぜこの社会的表現としての数字を問題にするかといえば、言うまでもなく、新聞が最も妥当なあり方でわれわれの社会に存在することを願う、そういう事態を作りだすためには、社会人一般の努力が必要であるからである。このように考えると、新聞について、現在のことをただ知っていることが望まれるのではなく、よりよき新聞のあり方を生みだすために、現在の新聞のあり方が問題にされるのである。いわば新聞の理念が理解されねばならないのである。

しかし新聞の理念がただ観念的に教えられるだけでは、これまたならぬ役に立たない。それが一つの概念としてあるだけでは、現実の新聞をよりよくする活動はできないからである。たとえば、新聞は正しいことを報道するものであるということがただ教えられただけでは、現実をどう処理したらよいかは分らない。というのは、現実の新聞は必ずしも正しいことを報道しているとは限らないのであって、行き違いや誤解によつて誤った報道もあれば、またわざと正しくないことを報道する新聞もないとはいえない。しかもそれらが皆一応正しいことを報道していることを看板としてるのであって、この新聞は誤ったことを報道する新聞だということを表示する新聞などというものはあり得ないのである。

われわれは現実の新聞がどれだけ、新聞の理念を実現しているかを見きわめて、そのたりない所を補つてますます正しい新聞というものを生み出していく努力をしなければならぬのである。こういうことができる人間をつくるのが新聞学習の目的であろう。すべての大衆がこういう能力をもつことによつて新聞は正しい新聞となり、それは社会の幸福をもたらす、それは大衆の生活の向上となるわけである。

ところで現在の新聞がこうであり、現実はこの問題があるという

ことを新聞の理念によって批判した結果を教えても、これはまたそのことについて知識をもったというにとどまり、ただそれだけでは何にもならない。というのは、ひとりひとりの人間が新聞をよくするために実際に何をなすかということは、現実の生活の中で新聞にかかわり合う仕方によって定まってくる。人はさまざまな職業をもち、さまざまな興味と関心をもって生活し、それぞれ異なった態度で新聞を利用してしている。同一の新聞を読んでも受けとるところは決して同じでない。しかしそれに応じて、それぞれに正しい新聞のあり方に協力することが要請されているわけである。すなわち正しい新聞のあり方を生み出すために現実に行動する道は、それぞれ人々の生活の現実から生み出すのである。理念を実現する道はひとりひとり異なるのである。

そこでひとりひとりに必要なことは、自分の生活の現実においていかに行動するのが正しいかを考えだし、それによって自主的に行動し得ることである、しかもその現実の生活は刻々動いているのであつて同じ事態が続いているわけでない。現在の新聞はかくあるべし、かくかくの現実はいか改めらるべしというようなことは、非常に具体的にあれば、それは一つの実例としての意味はもつが、必ずしもそういう具体的なことが、それぞれの人間にあるとは限らない。したがつてそういうことを教える意味は、そういう考え方をもち、それで自分の行動を生みだす力を与えようとする意味をもつ。その実際の例そのものが意味があるのではなく、参考であるにすぎない。またきわめて理念的に新聞はかくあるべきであり、現実の新聞は必ずしもそうでないということが教えられたとすれば、そのことを知識としてもつことが望まれていてののではなく、それを基準にして自分の生活に生かすことが望まれているのである。そのいずれの場合にも自分がぶつかる現実を自分で判断して、自分自身の行動を正しくとることが望まれるのである。

だから、新聞について学習させることの結果は、自分がぶつかる現実をそれぞれ自主的に判断して、自分自身の理想にしたがつて行動し、それがその現実からしては正しい必然の道であるということである。新聞について理解しているということの意義はこういうことである。補説に「新聞とラジオ」の学習の目的について、通信の発達によつて世界がいよいよ狭く、いわば一つになつて来ているという意味を、各種通信機関のうちもつとも現代的であり、かつ日常生活に親しい新聞とラジオによつて理解させることを目的としている、と述べられているが、そのことの本質的意義は以上考えたようなことである。この目的説明を、ただ字義にとられ世界が一つになつていくということとを知らせればよいなどと考えたら大きな誤りになる。そういうことをことばとして教えても何にもならないことは何人もうなずけることであろう。

### 三

このような意義で新聞学習をさせるのだということになるならば、それは新聞学習を経験化することであり、なかならず視覚化することである。多くの新聞学習をみると、まず新聞社の組織を知らべたり、新聞のできるまでを子供に調べさせたりしている。そしてその場合見学が行われたりして、なるほど一応視覚化されているようにみえる。それは、ただ観念的に組織的な順序を教えるよりすぐれている。しかしそもそもなぜその組織を問題にし、なぜ順序を問題にするかということはいままで考えられていないようである。新聞社を見せるということも結局は組織を教え、新聞のできる順序を教えるために、すなわち一つの知識をもたせるために見せるということにすぎない。それはまだ新聞学習の視覚化とはいえないであろう。学習の視覚化とは、そのよ

うにただ見せることなく、自己の現実を建設せんがために見ることである。経験学習の本来のあり方は、自己の生活の問題をとく生活において、学習することであったが、そういう経験学習の本来の意味において、学習の視覚化が問題にされるのである。新聞学習の視覚化について言えば、新聞社という対象があるからそれを見るところとして、自己が新聞を使って日常生活をしていると地盤として、その生活をより発展させるためにさまざまな努力をする。その一つとして自己自身の新聞生活を深く掘りさげるといふ意味で見ることである。まず見るものは自己自身の新聞を使う生活であり、自己自身が新聞を育てるためにどれだけのことをしているかを見ることなのである。

人はそれぞれのあり方で新聞を使って生活し、新聞を社会に存在せしめるためになんらかの役割を果たしている。多くの新聞の中からなんらかの新聞を買って読み、それによって自己の生活を営むための情報を得ているのである。自分がある一つの新聞を選んで購入することが、すでに新聞のあり方を決定する要素となっている。悪い新聞を買い求める人間が多ければ、社会に悪い新聞を存在せしめるために一役を買っていることになるのである。新聞の読み方に批判的な目がなければ、新聞は自らそういう人々の求めるような性格をもつに至る。いつもの報道になんらの疑をもたない読者ばかりがおれば、新聞は正しい報道をする努力をしなくなってくるであろう。新聞記者でない人々は、そういうことを通じて新聞を作っているともいえよう。そういう間接的な意味で育てているのである。しかしそれが大切なのであって、すべての人々が正しく新聞を使い得るとき、よき新聞が社会に存在するに至る。そしてそれが人間の生活の発展となるのである。

子供もまた新聞を読む。その生活の中に新聞が存在しているのであ

る。特に子供のための新聞もあれば、おとなの新聞も読む。さらに学校生活という集団生活の中での新聞として学校新聞をつくり、それを読むという生活もしている。それはただおとなのまねをしているのも何でもなく、やはり学校という社会の中の通信機関としての新聞を使い、育てていると考えるべきである。それが子供自身の学校生活をより充実するために役立つのである。これらの新聞を読み、それを育てるといふ生活がある所を土台として、そういう生活をより高い生活として建設する所から新聞学習が成り立つのである。その生活を見、これを自ら反省していくのである。

こういうふうにして新聞について見る世界に入っていくのである。学校新聞をよりよく発達させようとするならば、他の学校で発行されている新聞をみたり、その編集の苦心をみたり、それをいかに利用しているかをみたりすることが必要であろう。そういう現実をみながら考えて、新しく自分自身の行動を生み出すのである。また自分の読んでいる新聞をいかに使うか、あるいはいかなる新聞を購入して読むかを考えるには、人々が新聞をいかに使っているかを見たり、それぞれの新聞がいかにして編集されてくるかもみなければならぬ。そういう深い理解の上に立って新聞の選択もなされるのである。すなわち新聞の意義とか、その働きとかがよく見られてはじめて、自分の新聞に対する行動の仕方も正しいものとなる。

こうして新聞を見る世界にはいろいろとするなら、それはただ新聞社を見学するなどということではとうてい満たされない。新聞の編集を見るということについても、非常な努力が必要なのである。新聞がいかにして編集されるか一つをみるにしても、それを真に見るためには長い時間が必要である。また広い空間にわたって仕事として編集は成り立っているのであって、新聞社の編集局が編集の場所ではないとさ

え言えよう。むしろその背後にかくれた世界の方がより重要な見る世界なのである。編集局のデスクと人を見ても新聞の編集をみたことにはならない。新聞の編集ということ一つについても、真に見る世界に入って、そこで物を考えるには大変な努力がいる。しかしそうして考えた所にのみ真の実践の力が養われるのである。その他の問題、たとえば新聞をいかに利用するかについても真に現実をみて考えるということになれば、これも長い時間と、広く人々の世界に突込む努力が必要である。しかしそこにのみ真の実践の地盤ができるのである。

もしかくのごとく見る世界にはいつて学習を展開させることになれば、ここにどうしても見る世界を展開するための教具が必要となるのである。すなわち視覚教具といわれるものであるが、さまざまな見る世界を展開する材料を使って見る学習にはいることが必然的に必要となってくる。すでに現実の社会においては、こういう見る世界を展開させるものを豊富にもっているものであって、これを使って物を考え、行動のための材料としているのである。すなわち映画であり、幻灯であり、写真であり、さらにはテレビジョンである。現代社会の人々は、ただことばだけで考えているのでなく、すでにこういう道具で現実をみてそれぞれの行動を考え生みだしているのである。

学校だけが依然として教科書によって、ことばによって、物を考えている世界にいるべき理由はない。ここに学習は全面的に視覚化されなくてはならないし、視覚化を中心として学習構造が根本的にあらためられなければならないであろう。これはただ新聞の学習を一例として考えたのであるが、すべての社会学習において同様に考えられるべきものである。

(中央教育研究所所員)